

有限会社 オカノ薬局

兵庫県明石市大明石町1丁目6-1
パピオスあかし3F



代表取締役会長
岡野 吉秀



代表取締役
山中 祐子



明石駅徒歩切



明石駅前

明石駅前で長く営業を続けてきた『オカノ薬局』。地域で知らない人はいないという老舗だ。山中祐子社長の父親であり現会長である岡野吉秀氏は、二代目に当たる。長い歴史の中で阪神・淡路大震災や火災等、多くの困難を乗り越えながら変わりゆく時代の中で薬局を守り抜いてきた。本日は、タレントのダンカン氏が訪問、お話を伺った。

みなさんのお陰で紡いできた歴史を財産に

—早速ですが、『オカノ薬局』さんは長い歴史をお持ちと伺ってまいりました。その歩みからお聞かせください。

(山) 私の祖父の代から続いており、お陰様で長くこの地に根差し、みなさんにご利用いただいております。

(岡) まだ、薬局や薬剤師という言葉がなかった時代からで、雑貨屋の一部で民間薬を扱ってました。私が子どものころから、「岡野」と言えば「薬屋の?」と聞かれるほど、地域ではみなさんに慕っていただいていたね。

—歴史が古い分、刻一刻と変わっていく街の様子も見てこられたのでしょうか。

(岡) 明石駅前に『薬オカノ』のネオンがあったんですよ。その目の前に山陽電車の線路がありました。やがて総合スーパーができると、郊外にスーパーがなかった時代なので、休日は山陽電車に乗って大勢の方が総合スーパーに向かう様子が見えました。まだ自家用車を持つ人が少なかったですからね。

(山) 朝7時から夜11時まで営業していた時期もあり、高度経済成長期なんかは夜には栄養ドリンクを買いに来られる方が多かったそうで、人々の働き方にも時代を感じます。

—「24時間戦えますか」の歌詞でお馴染みのCMが流行ったころですね。

(山) そうです。この辺りは、再開発で随分と様相が変わりました。父は、全国の古い町と同様に、明石が再開発によって活気を呈していくのを心待ちにしてお

り、ショッピングセンターができたら足を運ぶのがライフワークで、人の動きを観察していたようです。「再開発を見届けるまでは死なれへん」が口癖で(苦笑)。(岡) 私たちは、明石市をアドバイザーとして入れて駅前の再開発勉強会を開き、この地が活気づいていく様子を見てきたんです。

(山) 阪神・淡路大震災、そして2007年には大きな火事に見舞われて、薬がすべて駄目になるなど大きな打撃を受けました。再開発もどうなることかという事態でしたが、そうした中でも父が何とか耐え凌いでくれました。

(岡) 火事の時には、見舞いに訪問してくれた市長に再開発の実現を頼み、そこから2年ほどで大きく動き始めました。

—大変なご苦労もされたのですね。

(山) 私は大阪に嫁いで暮らしており、その後、実務にあたるようになるまで父は一人で踏ん張ってくれました。明石駅前に複合ビルができてから7年目になりますが、それも父の悲願でした。ただ、薬剤師がいなくて、ちょうど私の一番下の子どもの受験が終わったころだったので、仕事に復帰しました。最も多い時で7店舗を展開していましたが、現在は5店舗です。総勢約50名いる従業員と薬剤師たちが、店をしっかり回してくれていて頼もしい限りなんです。

—薬剤師も今は不足していると聞きますが、こちらは人材に恵まれているのでしょうか。

(山) 50名のうち20名強が薬剤師です。ので、本当に恵まれています。父の時代から人材を大切に社風が根付いていて、約30年働いてくれている薬剤師の方もいるんですよ。

(岡) 郊外の薬局ですと、募集しても薬剤師の応募がないと嘆く声もあります。駅前という立地もあると思いますが、昔から長く勤めてくれる方が多くて嬉しい限りです。それから、先生方とのつながりも大きいですね。ずっと昔からこの地で薬を扱ってきて、「オカノ村」なんて呼ばれており、先生から薬局の開業をお願いされることもありますから。

(山) それも父と先生方の間に強い信頼関係があればこそです。街の薬局がどんどん姿を消してドラッグストアが増える時代となり、このまま薬局は減り続けるだろうと言う方もいますが、『オカノ薬局』という暖簾は大切に守っていきたいですね。

—確かにドラッグストアの台頭はすさまじいですが、長年地域に密着してこられたことは大きな強みだと思います。

(山) ありがとうございます。おっしゃる通りで、長年地域に密着してみなさんに寄り添ってきたことは、当薬局の大きな強みです。実際、ご近所にも薬局があるはずなのに、「昔から薬はオカノさんで買っていたから」とバスに乗ってわざわざ処方箋を持って来られるお年寄りもいらっしゃり、当薬局をかかりつけ薬局として通ってくださる方を大切にしたい

地域密着のかかりつけ薬局であり続けたい

と考えています。

—通いなれたかかりつけ薬局が、やはり安心できるのでしょうか。

(山) 明石は若い方の人口も増えていますが、お年寄りも多い。住み慣れた土地で安心して暮らし続けられるよう、お薬をご自宅までお届けしたりと薬局としてできることを模索しながら進めています。そうして、地域のみなさんの健康な暮らしを守ることを、開業からずっと変わらずこの『オカノ薬局』のポリシーですから。みなさんに寄り添い続けるためにも経営を継続させ、従業員を守らなければいけません。例えば医療費削減の動きや薬剤師の訪問サービスに対するニーズの高ま

りなど、時代に合わせて変わっていくべき部分もあります。父が築いてきた土台を守りながら、柔軟な姿勢で変わりゆく時代にしっかり追いついていきたいです。—力強いお言葉ですね。会長は、どのようにお考えですか。

(岡) 「商いは牛の涎」と言われ、細く長く垂れる牛の涎のように、気長に辛抱強くこつこつ続けることがコツです。従業員と患者さんを大切に、正しい行いに徹して、商売を継続する——これに尽きます。

—地域のみなさんのためにも、今後も永く続けていってください!

(2023年10月取材)

column: 働きやすい環境が整う

▼時代が流れ、変わったのは街の様子や薬局を取り巻く様相だけではない。人々の働き方も大きく変わった。『オカノ薬局』は、常に人材を大切にしてきた。それもあって、総勢50名、そのうち薬剤師が20名強という豊富な人材に恵まれ、勤続年数の長いベテランも多い。休日を可能な限り希望通り取得できるよう取り計らい、男性従業員の育休取得も実現。また、小さい子どもを持つ薬剤師が子どもの急病で休む時には、60代以上のベテランが急なシフト変更にも快く対応してくれるという。従業員が働きやすい環境を、会社の方針として、そして従業員同士の協力によって築いているのだ。歴史に胡坐をかくことなく時代に合わせた企業努力を続けることが、長く続く秘訣の一つだ。



「大変な困難に見舞われながらも歴史を守ってこられた岡野会長。『あまり昔のことは思い出しません。前だけ見えています』とおっしゃり、格好いい方だなと思いました。地元の先生方とのパイプもある会長。『父が築いてくれた土台を大切に、時代に合わせた取り組みを実践して事業を守っていききたい』と山中社長。父親から娘へ、しっかりバトンは渡っていますね」ダンカン・談



タレント
ダンカン